

海上における船舶ための共通通信システムの在り方及び  
普及促進に関する検討会 第1回会合 議事要旨

1 日時 平成20年4月24日(木) 10:30~12:00

2 場所 総務省10階 1001会議室

3 出席者

(1) 構成員(敬称略)

三木 哲也(座長)、林 尚吾(座長代理)、津田 眞吾、山本 廣(代理)、  
清水 偉行(代理)、渡辺 悟、木上 正士(代理)、待場 純(代理)、  
児玉 萬平、釣谷 康、中村 勝英、狩俣 恭太郎(代理)、宮崎 勝、  
斎藤 春夫(代理)、安藤 昇、森 雅人、天辰 弘二(代理)、  
大久保 隆洋(代理)、藤井 寿夫(代理)、竜崎 哲、鈴木 務

(2) 事務局

名執衛星移動通信課長、坂中企画官、濱崎課長補佐、岡調整係長

4 議題

(1) 検討会の進め方

(2) 海難事故及び海上無線通信の現状

(3) 今後の検討課題及び検討スケジュール

(4) その他

5 議事概要

- ・海難は人為的な要因によるものが多い。説明された資料においても、「見張り不十分」が要因の大部分を占めている。この検討会で検討する通信システムの整備と海難防止の相関関係が見えない。ましてや、義務化ということであれば、なおさら。(プレジャーボート関係)
- ・ヒューマンエラーに対するフェイルセーフとして、当省で担当している通信でなにかできるのではないか、という問題意識で検討したいと考えているところ。(事務局)
- ・さきほど説明された資料を踏まえると、「教育が重要」と捉えられるのだが。(プレジャーボート関係)
- ・おっしゃることもごもっともだが、通信で注意喚起するなどにより、ヒューマンエラーを防止する効果もあると考えている。(事務局)
- ・今回の検討会では、共通通信システムについて検討するということであるが、国際VHFとマリンVHFなどの既存のシステムの改良について検討するのか、それとも新規のシステムを構築するのか。両方必要でないかと

考えているが。(通信機メーカー関係)

- ・両方必要と考えているところ。(事務局)
- ・検討会の取りまとめのゴールをどこに置くのか明確にして欲しい。外洋のヨットレースは、国際VHF搭載が義務づけられている。(再)免許手続などが煩雑で、普段は通信の相手もないので、免許を維持する理由が見当たらない。共通通信システムを構築するのであれば、普段の通信に使えないと維持することに意義を感じないので、普段の通信に使えるようなものとして欲しい。海外のヨットレースでは、ハガキー一枚で国際VHFの開局ができる。航空母艦とプレジャーボートが交信していた。日本でも外洋に出る船に義務化にすべきではないか。(プレジャーボート関係)
- ・国際VHFのCH16は、混信で使えなくなっただけではないので、そのあたりの検討は慎重にする必要がある。(事務局)
- ・電波部長のあいさつでも「国際的ルールを念頭に置いて」ということであつたので、この検討会で海外の状況を調べる必要があるだろう。(座長)
- ・ワーキンググループの取りまとめを仰せつかったので、一言発言したい。

海難事故は人為的なエラーがほとんどであるという指摘があり、これに対し、なんらかの支援装置、あるいはシステムを検討していくことにより解決できないかというのが総務省のスタンスであるとのことであつた。

ただしお事故はいまから約20年前のことだが、水洋会の中村様からも指摘があつたように、20年間の技術の進歩を踏まえて新たな対策ができないかという問題意識を持っている。

外洋のヨットレースでは、ハガキー一枚で無線局開設の手続きができるというお話があつた。については、無線局をマリナーは持っているけど、(ヨットに乗る方々は無線局免許を)返上している。そういったことを踏まえると、様々なシステムがあるが、その各(システムの)グループで限定されている現状となっている。それを横断的にできるようなそういったものが必要ではないか。(座長代理)

- ・手続が簡便で、かつ、安価なシステムであれば、航行の安全に役立つので、義務化はやぶさかでない。義務化で我々ユーザーに過大な負担にならないことが必要。(プレジャーボート関係)
- ・無線設備の船舶への搭載の義務化は、それなりに普及が進み、ユーザーがウェルカムということであれば、当省としては義務化することは、やぶさかではないと考えている。(関係省庁関係)
- ・今回の検討会の開催のきっかけは、あたごと漁船の衝突事故と考えている。ただしお事故でも相手船に意思が伝わらなかった。見張りで人間がエラーをおかすことを認めただけで、相手が避けてくれるかどうかの確認までで

きるシステムを作らなければならない。

今回の検討会は、7月までに中間取りまとめを行うというタイトなスケジュールである。中間取りまとめに当たっては、検討会でのそれぞれの発言を列記するだけでも十分に意義があるのではないか。(アドバイザー)

【配付資料】

- 資料海共 1-1 「海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会」開催要綱(案)
- 資料海共 1-2 海難事故の現状
- 資料海共 1-3 海上無線通信の現状
- 資料海共 1-4 今後の検討課題(案)
- 資料海共 1-5 検討スケジュール(案)